

福祉生活病院常任委員会資料

(令和6年11月29日)

[件 名]

- 第15回中海会議の開催結果について
(水環境保全課)・・・2
- 下水道 BCP 訓練の実施概要について
(水環境保全課)・・・5
- 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について
(住宅政策課)・・・6

生 活 環 境 部

第15回中海会議の開催結果について

令和6年11月29日
総合統括課
水環境保全課
農地・水保全課
水産振興課
河川課

中海に関する諸問題を協議検討する第15回中海会議を、以下のとおり開催しました。

- 1 日時 令和6年11月18日（月）午前10時30分から正午まで
- 2 場所 米子ワシントンホテルプラザ
- 3 出席者 国土交通省中国地方整備局長、農林水産省中国四国農政局長、鳥取県知事、島根県知事、米子市長、境港市長、松江市長、安来市副市長 <オブザーバー>環境省中国四国地方環境事務所長、防衛省航空自衛隊美保基地司令
- 4 概要

(1) 中海及び境水道の堤防、護岸等の整備について

- 大橋川拡幅の前段階で湖岸堤を先行するという手順どおりに整備が進められていることが報告、確認された。
 - 令和6年4月1日から中海の水防警報発表の基準水位を変更したことが報告された。（水防団待機水位の0.05m引き上げなど）
- ⇒できるだけ前倒しでの湖岸堤整備、中海の潮位上昇による湖岸堤整備への影響の検証、樋門操作の省力化を求める意見があり、引き続き関係機関において取り組むこととされた。

(2) 中海の水質及び流動について

- 令和5年度の水質状況、中海の水質改善に向けた流入負荷・湖内対策に関する研究結果が報告された。
 - 中海の水質は、下水道整備などにより長期的には改善傾向にあり、多くの環境基準点で第7期湖沼水質保全計画で定めた水質目標値は達成しているものの、未だ環境基準の達成には至っていないため、令和6年度中に策定する第8期計画において、引き続き各種水質保全対策に取り組んでいくことが確認された。
- ⇒覆砂や浅場・藻場の造成による水質改善、水質浄化技術の調査研究、大橋川拡幅による宍道湖からの流入量の変化が水質に与える影響についてのモニタリングを求める意見があり、引き続き水質モニタリングの実施・結果の分析、調査研究を行うこととされた。

(3) 中海沿岸農地の排水不良について

- 農地嵩上げにより、排水不良に対する一定の効果が確認されたことについて報告された。
- 本年度をもってモデル地区ほ場の嵩上げが完了し、また、排水不良解消に向けた対策手法が概ね確立されたことなどを踏まえ、中海会議におけるWG（ワーキンググループ）としては一定の役割を終えた旨の総括が行われた。

(4) 中海の利活用について

- 漁業権が設定されたサルボウガイの養殖など、利活用（ワイズユース）の事例について報告された。
 - 各団体の主体的な取組が継続し、より広域な連携等の新たな取組も展開されていることを踏まえ、中海会議におけるWGとしては一定の役割を終えた旨の総括が行われた。
- ⇒引き続き取り組むべき課題については、中海会議以外の場も働かせて、関係機関で連携して取り組むこととされた。

(5) 中海会議の見直しについて

- (3)及び(4)の報告を踏まえ、両WGは廃止することとし、今後は湖岸堤等整備・水質問題に絞り込んでより重点的に協議検討を行う旨の中海会議設置要綱の改正案が事務局から提案され、了承された。

(参考) 中海会議とは

平成21年12月19日に締結された鳥取、島根両県知事の協定書に基づき、関係機関が共同して、未来に向かってより良い中海圏域を築くため、中海の水に関する諸問題を協議検討する場として、平成22年4月22日に設置した会議。

- ※個別課題の検討・調整を行うため、
- | | |
|------------------|---------------|
| ①中海湖岸堤等整備に係る調整会議 | ②中海の水質及び流動会議 |
| ③中海沿岸農地排水不良WG | ④中海の利活用に関するWG |
- 4つの部会等を設置。

1 令和5年度環境基準・水質目標値達成状況等について

○中海の水質については、第7期湖沼水質保全計画（R1～R5）の目標値に対して、令和5年度は全環境基準点（12地点）のうち10地点でCOD、全窒素、全りんとの三項目とも目標値を達成し、長期的に改善傾向。

図1-1 中海の環境基準点の位置図

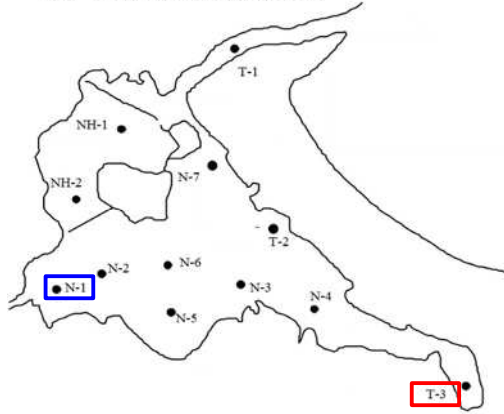
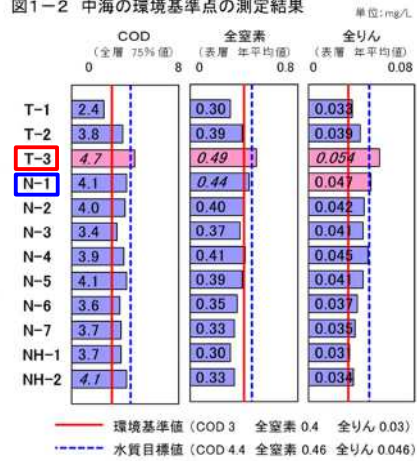
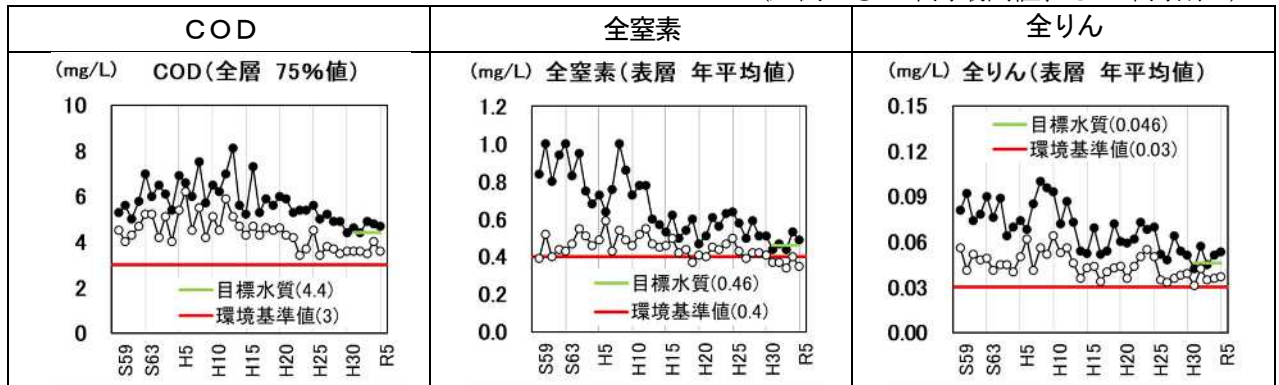


図1-2 中海の環境基準点の測定結果



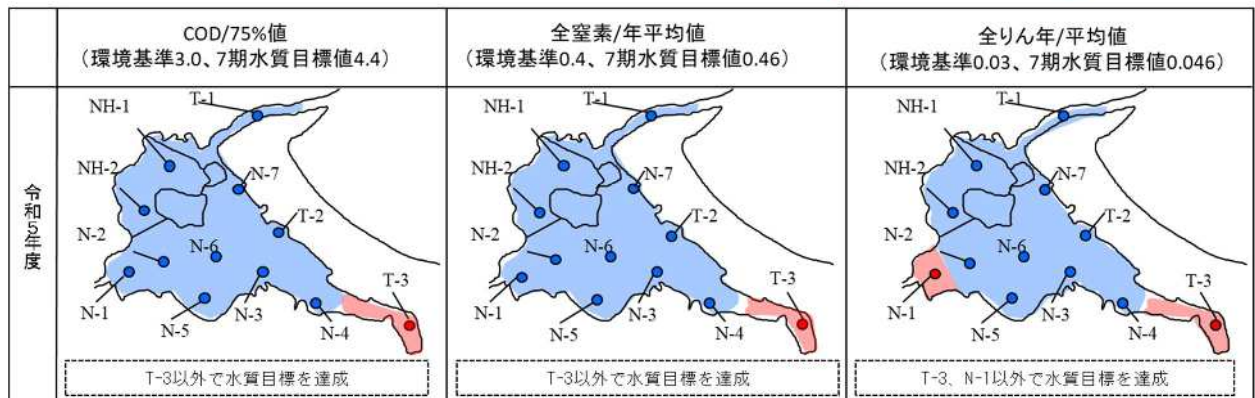
(参考1) 経年変化（中海湖心（N-6）と各年度において最も高い地点の傾向分析）

(凡例 ●：中海最高値、○：中海湖心)



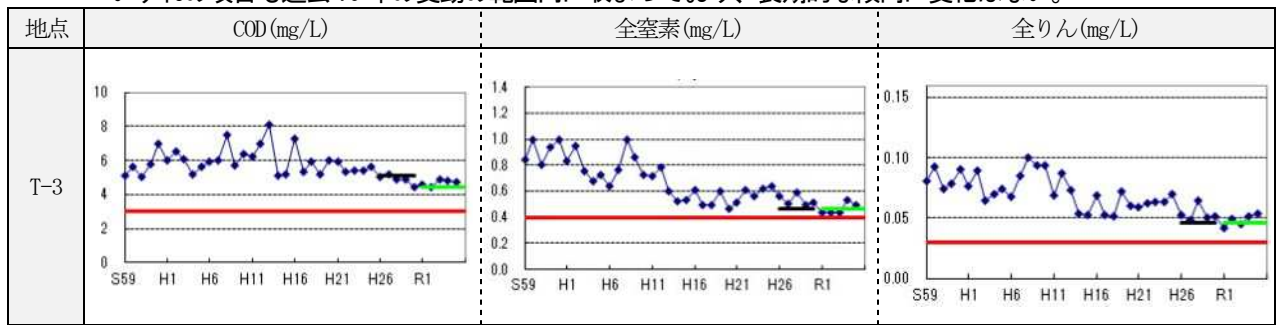
(参考2) 令和5年度結果のイメージ

●：計画目標値未達成 ●：計画目標値達成



(参考3) 水質目標未達成地点の経年変化

- 令和5年度は、米子湾中央部（T-3）でCOD、全窒素、全りん等の三項目とも未達成であった。しかし、いずれの項目も過去10年の変動の範囲内に収まっており、長期的な傾向に変化はない。

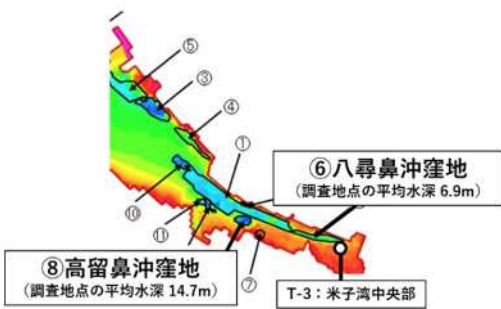


■ : 水質目標値 (COD 5.1/全窒素 0.46/全りん 0.046) (H26~H30)
 ■ : 水質目標値 (COD 4.4/全窒素 0.46/全りん 0.046) (R1~R5)
 ■ : 環境基準 (COD 3.0/全窒素 0.40/全りん 0.030)

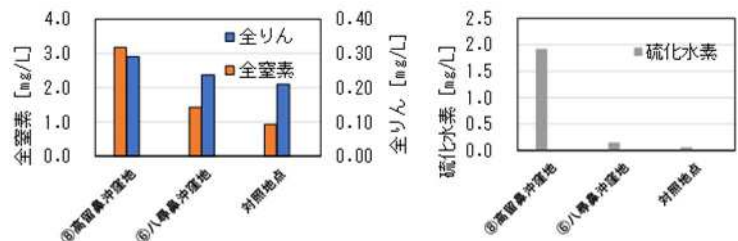
いずれの項目も長期的に改善傾向

2 令和5年度水質流動会議報告事項

<湖内対策の調査研究> 米子湾窪地の実態調査



【米子湾窪地の調査地点位置図】

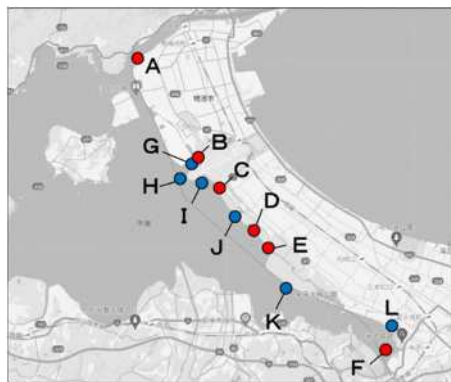


【窪地中（水質）の全窒素、全りん、硫化水素の濃度（R4~R5年度（4回測定）の平均値）】

<調査結果>

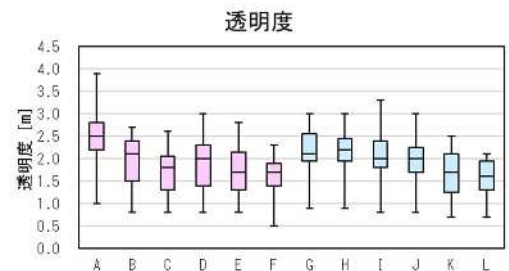
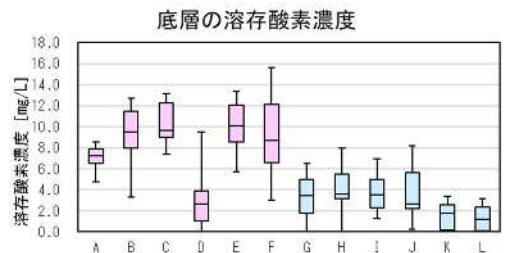
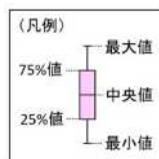
全窒素、全りん及び硫化水素の濃度は、窪地内部において、特に水深が深い高留鼻沖窪地において高くなる傾向がみられた。

<沿岸域の水質調査> 新たな評価指標の検討に向けた調査



【調査地点の位置図】

	調査地点	水深 (m)
● 浅場	A	4.9 ~ 5.9
	B	2.6 ~ 3.2
	C	1.6 ~ 2.7
	D	3.7 ~ 6.5
	E	1.6 ~ 3.5
	F	2.2 ~ 3.0
● 常時監視地点	G	4.6 ~ 7.2
	H	6.5 ~ 7.5
	I	8.2 ~ 8.9
	J	7.2 ~ 7.9
	K	6.7 ~ 9.9
	L	5.3 ~ 5.9



【調査地点における底層の溶存酸素濃度と透明度（令和5年9月から令和6年3月）】

<調査結果>

底層の溶存酸素濃度は水深が浅い地点の方が、透明度は北の地点の方が、それぞれ高くなる傾向がみられた。

下水道 BCP 訓練の実施概要について

令和 6 年 11 月 29 日
自然共生社会局水環境保全課

能登半島地震の教訓として、耐震化の促進に加えて発災時における初動対応力の向上が挙げられたことを踏まえ、全国からの支援が到着するまでの間の特に被災自治体のみで対応が必要な初動対応を想定した下水道 BCP 訓練を県、市町村、関係団体と合同で実施したので、概要について報告する。

1 目的

市町村及び関係業界団体と合同で大規模地震を想定した下水道 BCP 訓練を実施し、訓練を体験することにより、県と関連市町等における情報伝達の迅速化や被害に対する対応力の向上を図るとともに、訓練から得られた課題を抽出・整理し、下水道 BCP 計画の実効性を高める。

2 日時・場所

日時：11月14日（木）午後1時から4時まで

場所：鳥取県天神川流域下水道 天神浄化センター（湯梨浜町はわい長瀬）

3 参加団体

県、鳥取市、米子市、倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町、公益財団法人鳥取県天神川流域下水道公社、一般社団法人鳥取県浄化槽協会、公益財団法人日本下水道管路管理業協会

※本訓練は県の天神川流域下水道を中心に流域関連市町を対象とした訓練内容としたが、鳥取市・米子市にも訓練に参加いただいた上、その他市町村にも見学いただくことにより、令和7年度以降は東部・西部圏域でも両市が中心となって同様の訓練を実施するよう調整中。

4 訓練内容

災害発生直後から3日後までの場面（被災自治体のみで対応が必要な緊急対応段階）を想定したペーパーテスト及びロールプレイング形式の図上訓練を実施した。

<想定災害> 県中部において震度6強の地震が発生し、下水道被害は県内のみで発生した場合を想定。

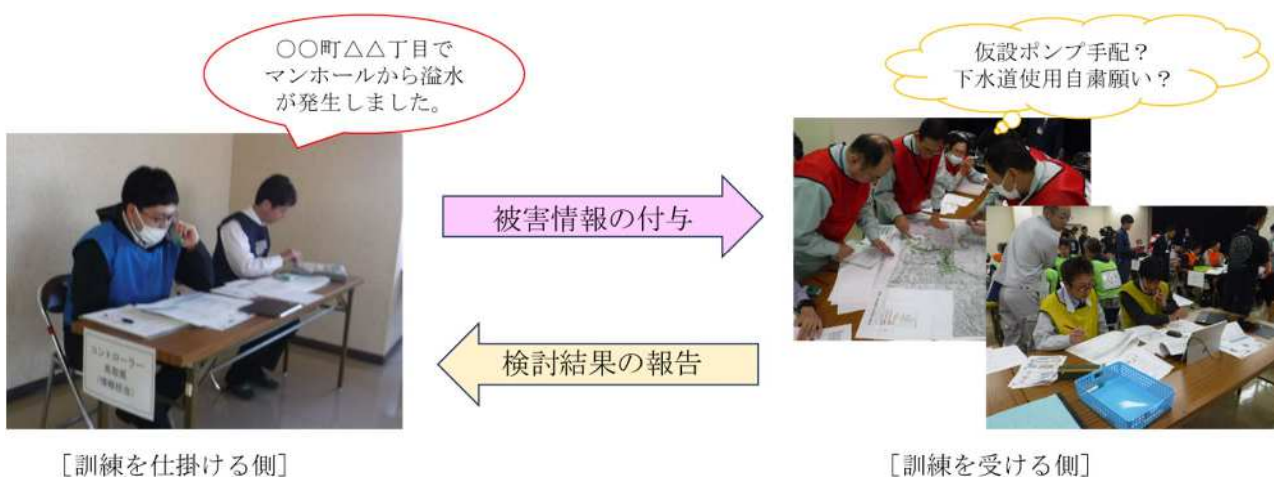
<訓練内容> ①ペーパーテスト

各自治体のBCP計画に基づき、連絡体制、対策本部立ち上げ等の対応手順を確認した。

②図上訓練（ロールプレイング方式）

訓練を仕掛ける側と訓練を受ける側に分かれ、逐次与えられる被災情報への対応を経験することにより、対応力の向上とBCP計画の実効性向上を図った。また、発災4日目以降の全国からの支援隊にスムーズに引き継ぎを行うための資料調製を確認し、復旧までに要する時間の短縮を図った。

<当日の様子>



5 参加者からの主な意見

参加者から次のような、BCP 訓練の継続的实施や BCP 計画改定の必要性などの意見があった。

今後、本訓練での気づきを踏まえ、各自治体において BCP 計画改定等の必要な措置を講じていくこととしている。

- ・ BCP 計画を策定してから初めて訓練を実施した。計画の内容を把握できていないことや具体的な行動が記載されていないことから既存の BCP 計画が不完全であると認識した。
- ・ BCP 計画に維持管理者や施設の規模・能力も記載してあると災害時の対応がスムーズになると感じた。
- ・ 日頃から、災害用資材の在庫数の把握や必要数を把握していくことが重要であると感じた。
- ・ BCP 計画を読んだだけでは効果が薄いので、定期的な訓練が必要であると感じた。

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

令和6年11月29日

生活環境部

【新規分】

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	入札方式
くらしの安心局 住宅政策課 (営繕課)	県営住宅河北団地第二期住戸改善工事(55棟・63棟)(建築)	倉吉市 福庭町	県営住宅河北団地第二期住戸改善工事 (55棟・63棟)(建築) 井木組・高野組特定建設工事共同企業 体	483,340,000円 (予定価格) 483,340,000円	令和6年10月17日 ～令和8年1月20日	令和6年10月16日	制限付一般競 争入札 (2社)
	県営住宅河北団地第二期住戸改善工事(55棟・63棟)(機械設備)	倉吉市 福庭町	株式会社足立水道設備 代表取締役 池上 正浩	100,573,000円 (予定価格) 108,141,000円	令和6年9月18日 ～令和7年12月15日	令和6年9月17日	制限付一般競 争入札 (3社)